

# I 平成28年度事業報告

公益財団法人いばらき文化振興財団の設立趣意に則り、県民のニーズを反映し、魅力ある文化振興事業を行い、個性豊かな地域文化の創造を図るため次の事業を行った。

## 総括的事項

公益財団法人としての経営4年目として「中期経営計画」に沿った運営に努めた。

- (1) 文化芸術に接する機会の提供については、クラシック音楽をはじめ、伝統芸能、舞踊等37事業を行い、個性豊かな県民文化の振興に努めた。
- (2) 文化芸術に関する活動への助成については、自主的で個性的な文化活動団体等31件に対し財政的な支援を行い、地域における文化芸術の振興に努めた。
- (3) 茨城県立県民文化センターの運営については、指定管理者として施設利用の促進をはじめ、利用者サービスの向上と施設の適正管理に努めた結果、施設全体の利用率は前年度と同水準の79.7%、施設全体の利用者数は当初計画を上回る604,882人となった。
- (4) アクアワールド茨城県大洗水族館については、8月のオリンピック観戦、台風の襲来、11月以降の降雪、地震等の要因により前年度比約2%の入場者数の落ち込みが見られたものの、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営に努めるとともに、栃木・埼玉等近隣の道の駅、文化施設等でのPRをはじめ、SNSを含む様々な媒体を活用した誘客活動を行った結果、目標入場者数を上回る1,134,313人の入場者を迎えることができた。

## 1 法人運営事業

県から指定管理を受けた茨城県立県民文化センターの管理運営及び財団自ら運営するアクアワールド茨城県大洗水族館並びに利便施設としてのレストラン・売店・駐車場等の自主事業について、県及び各事業所と緊密な連携を図り、業務遂行の進行管理及び事業の推進に当たるとともに次の事業を実施した。

なお、平成27年度事業に係る茨城県監査委員による監査については、適正に処理されたものと認められ、また、県出資団体経営評価においても、平成27年度の事業について「概ね良好」の評価を得た。

### ア 理事会、評議員会の開催

平成27年度事業報告及び決算、平成29年度事業計画及び収支予算等について審議するため、理事会、評議員会を開催した。

項目	開催日時	議案
監事監査	平成28年5月13日	平成27年度事業報告及び決算等

平成 28 年度第 1 回理事会 (出席 9/12)	平成 28 年 5 月 20 日	第 1 号議案：平成 27 年度事業報告及び決算について 第 2 号議案：平成 28 年度収支補正予算について 第 3 号議案：第 4 期中期経営計画について 第 4 号議案：退職年金規程の改正について 第 5 号議案：平成 28 年度定時評議員会の開催について
平成 28 年度定時評議員会 (出席 9/12)	平成 28 年 6 月 3 日	第 1 号議案：評議員の選任について 第 2 号議案：理事の選任について 第 3 号議案：平成 27 年度事業報告及び決算について
監事監査	平成 28 年 11 月 28 日 平成 28 年 11 月 30 日	平成 28 年度上半期事業報告及び収支決算等
平成 28 年度第 2 回理事会 (出席 11/12)	平成 28 年 12 月 13 日	第 1 号議案：平成 29 年度上半期自主公演事業の計画 及び収支見込み(案)について 第 2 号議案：平成 28 年度収支補正予算(案)について 第 3 号議案：茨城県立県民文化センター利用料金規程 の一部改正(案)について
平成 28 年度第 3 回理事会 (出席 9/12)	平成 29 年 3 月 27 日	第 1 号議案：平成 29 年度事業計画(案)及び収支予算 (案)について 第 2 号議案：事務局長の任免について

## イ 運営指導の実施

事務事業の効率化と合理化を図るため、次の各項目について運営指導を行った。

- (ア) 各事業所の懸案事項等の調査検討と対応策の推進
- (イ) 各事業所の事業推進指導及び進行管理
- (ウ) 上半期決算ヒアリングの実施による上半期の実績検証及び下半期に向けた対策の検討
- (エ) 会計経理等に関する各事業所への実務指導

## ウ 職員研修の実施

職員の資質向上及び職務能率増進のため、次の研修を実施した。

(研修実績)

区 分	研修名	人数	備 考
財団主催研修	新採研修	5	新規採用職員
公社等連絡協議会主催研修	一般研修	12	第 1 部から第 5 部課程研修
	特別研修	13	応接研修, 会計研修, 海外研修, ライフプランセミナー
危機管理研修		16	普通救命講習会
各種セミナー研修		235	情報セキュリティセミナー, アートマネジメント研修, 英会話研修, 公文協研修, 通信研修等
計		281	—

## 2 公益目的事業 1 (文化振興事業)

(1) 自主公演事業 (主催公演 16 事業, 共催公演 14 事業, 計 30 事業)

ア 普及事業 (主催 3 事業)

第 42 回茨城県新人演奏会を開催し、茨城県の新進演奏家に対して演奏機会の提供と有望な演奏家の発掘を推進した。また、歌舞伎やオペラ公演において、講師を招き公演前に演目や曲目等に関する講座を開催し、舞台公演をより身近に感じてもらうとともにリピーターの確保と新規鑑賞者の開拓に努めた。

#### イ 参加創造事業（主催 4 事業）

世界を代表する金管五重奏団「カナディアンブラス」と県内小学校（三の丸小学校、笠原小学校）から選抜・編成した金管合奏団によるクリニックと合同演奏会を開催し、貴重な体験をとおして次世代を担う児童たちに音楽の魅力を伝えるとともに国際交流の推進を図った。

また、県民文化センター開館 50 周年を記念して、これまでの茨城県新人演奏会出演者から選抜した演奏家を中心に編成した管弦楽団と現田茂夫氏を指揮者に招き「新人演奏会管弦楽団コンサート」を開催し、本県出身及び在住の演奏家に演奏の場を提供するとともに演奏技術の向上を図った。

さらに、登録アーティストを活用し、映像や文学等の異なる分野と音楽を融合させたプログラム（映画・百人一首）を独自に企画制作した演奏会「ミュージックカフェ」を開催し、新進演奏家の支援と新たな活動の一翼を担った。

#### ウ 鑑賞事業（主催 9 事業、共催 14 事業、計 23 事業）

4 月 9 日から 11 日の 3 日間を県民文化センター開館 50 周年記念日と位置づけ、「ミッフィーの音楽会」、「宗次郎オカリナコンサート」、「諏訪内晶子ヴァイオリンリサイタル」を開催し県民各層を網羅した舞台公演を提供した。

また、公演事業全てに開館 50 周年記念事業の冠を付し「ユンディ・リ」、「辻井伸行」といった世界一流のピアニストを招聘した演奏会をはじめ、「宝塚歌劇月組公演」、「葉加瀬太郎コンサート」や「千住明カレンダーコンサート」など記念事業にふさわしい国内外を代表するアーティストによる舞台公演を提供し、文化芸術の振興に寄与した。

#### （公演実績）

区分	ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数
普及事業	講座	7/2（土）	歌舞伎をより楽しむ会	県文小ホール	1	272 名
		10/19（水）	オペラ・アリアをより楽しむ会	県文小ホール	1	256 名
	新進演奏家育成	9/18（日）	第 42 回茨城県新人演奏会	県文大ホール	1	556 名
参加創造事業	地域音楽活性	11/13（日）	カナディアンブラス	県文大ホール	1	716 名
	新進演奏家育成	1/22（日）	新人演奏会管弦楽団コンサート	県文大ホール	1	752 名
		2/11（土）	ミュージックカフェ Vol.01	県文小ホール	1	276 名
		3/5（日）	ミュージックカフェ Vol.02	県文小ホール	1	147 名
鑑賞事業	ミュージカル	4/5（火）	宝塚歌劇月組公演	ひたちなか市文化会館	2	2,580 名
	演劇	11/3（木）	かわせみ座	県文小ホール	1	233 名
	歌舞伎	7/2（土）	松竹大歌舞伎	県文大ホール	2	1,732 名

鑑賞事業	器楽	4/10 (日)	宗次郎オカリナコンサート	県文大ホール	1	666名
		4/11 (月)	諏訪内晶子ヴァイオリンリサイタル	県文大ホール	1	362名
		6/2 (木)	ユンディ・リ・ピアノリサイタル	県文大ホール	1	940名
		10/11 (火)	浅野祥・津軽三味線演奏会	県文大ホール	1	1,188名
		1/28 (土)	大野雄二&ルパンティックシックス	県文大ホール	1	973名
		3/10 (金)	辻井伸行ピアノリサイタル	県文大ホール	1	1,514名
	室内楽等	9/25 (日)	千住明カレンダーコンサート	県文大ホール	1	430名
		11/30 (水)	葉加瀬太郎コンサート	県文大ホール	1	1,472名
		3/12 (日)	ドラゴンクエスト・オーケストラ	県文大ホール	1	1,424名
	ポップス・歌等	4/9 (土)	ミッフィーの音楽会	県文大ホール	2	1,075名
		5/24 (火)	フォレストコンサート	県文大ホール	1	1,451名
		5/29 (日)	TMレボリューション	県文大ホール	1	1,444名
		6/29 (水)	AI コンサート	県文大ホール	1	1,444名
		7/18 (月)	中島美嘉コンサート	県文大ホール	1	1,458名
		9/3 (土)	高野公男没後 60 周年祭演奏会	県文大ホール	2	2,520名
		11/12 (土)	クリスハートコンサート	県文大ホール	1	1,482名
		1/29 (日)	清水アキラ&清水良太郎	県文大ホール	1	966名
		3/11 (土)	伊勢正三&イルカ・コンサート	県文大ホール	1	1,449名
	漫才・漫談	2/1 (水)	綾小路きみまろ笑撃ライブ	県文大ホール	1	1,514名
		3/4 (土)	漫才の DENDO 全国ツアー	県文大ホール	1	999名
計 30 事業 (主催 16 事業, 共催 14 事業)					34	32,291名

## (2) 受託事業

### ア いばらき文化芸術創造・発信事業

茨城県新人演奏会出身の新進演奏家をソリストに迎え、プロのオーケストラ（東京室内管弦楽団）との共演によるクラシックコンサートを日立市と龍ケ崎市の 2 会場において入場無料で開催し、次世代を担う子どもたちに良質な音楽を提供するとともに、本県出身の演奏家の育成を図った。

また、コロラトゥーラ・ソプラノの女王として世界中のファンを熱狂させてきた「エディタ・グルベローヴァ」をソリストに迎え、プラハ国立歌劇場管弦楽団の演奏会を開催し、海外の優れた舞台芸術を低廉な料金で提供することで、本県の文化芸術の振興に寄与した。

さらに、県民等が文化に関する認識を深め、自主的に文化活動に関われるようにするための実践的な知識や手法等を習得する講座を新規で開催したほか、従来実施していた登録アーティストを県内の小中高等学校に派遣する音楽出前講座に、美術（絵画・書・陶芸）と伝統文化（華道・茶道）の 2 講座を新たに加えた文化芸術体験出前講座を実施するなど、講座での体験をとおして文化芸術の普及に努めた。

## (公演実績)

区分	ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数
いばらき文化芸術創造・発信事業	オーケストラ	8/6 (土)	みんなで楽しむオーケストラ ・8/6：永田絵里子 (ピアノ)	日立シビックセンター	1	535名
		9/3 (土)	・9/3：大谷朋 (ピアノ)	龍ヶ崎市文化会館	1	894名
		10/19 (水)	エディタ・グルベローヴァ & プラハ国立歌劇場管弦楽団	県文大ホール	1	762名
	器楽	9/10 (土)	日露交歓コンサート 2016	常陸太田市民交流センター	1	940名
		3/19 (日)	第13回茨城国際音楽アカデミーin かさまコンサート	県文大ホール	1	1,362名
	参加支援	3/21 (火) ～3/28 (火)	第13回茨城国際音楽アカデミーin かさま受講 (渡邊真亜子・ピアノ)	茨城県教育研修センター	—	—
	講座	12月～2月	アートマネジメント講座	県文集会室	6	170名
アウトリーチ	5月～3月	文化芸術体験出前講座 ・音楽 60校 ・美術 18校 ・伝統文化 20校	県内小中高 学校 (98校)	98	15,385名	
計7事業					109	20,048名

## イ 県民文化センター開館50周年記念式典等事業

開館50周年を記念し、式典の開催及び記念誌を発刊した。

式典では、「野口雨情の世界」と題して尺八・箏・ソプラノ・三味線等による演奏を披露したほか、50年の歩みとして開館から現在までの主な事業等をスライドで紹介した。

- ・記念式典 日 時：平成28年4月11日 (月) 午後3時から  
会 場：茨城県立県民文化センター小ホール  
参加者数：353名 (県・市町村・文化団体・公立文化施設等関係者)
- ・記念誌発刊 発行部数：410部

## (3) 財団振興積立金事業

各事業所で広報媒体を選定し公演やイベント等の広報を行い誘客促進を図った。

## (振興積立金事業実績)

項目	内容	金額 (円)
事務局	茨城新聞月極広告, よみうりタウンニュース 他	903,204
県民文化センター	茨城新聞月極広告, 茨城朝日 他	1,001,609
大洗水族館	TX 秋葉原駅大型フラッグ掲出	1,068,228
合 計		2,973,041

※ 茨城新聞月極広告は事務局と県民文化センターとの合同広告

## (4) 文化芸術活動への助成

県内各地で行われている自主的で個性的な文化活動を行う団体等に対して助成を行うことにより、県民の文化活動への参加を促進し、地域における文化芸術の振興に寄与した。

(助成実績)

申請件数	交付決定件数	助成件数	助成額(円)
41	31	31	10,917,000

(5) 市町村文化施設及び地元演奏家への支援事業

県内の公立文化施設で構成する茨城県公立文化施設協議会の会長館として、会員館と連携を図り、緊密な情報交換及び職員研修等を行ったほか、県内で活動している音楽家や文化団体の支援を行った。

- ・茨城県公立文化施設協議会 会員館：34 館 事業内容：総会や各種研修会の実施（4 回）
- ・文化活動団体等への後援：11 件
- ・県内公立施設等への演奏家派遣：3 件

(6) 県民文化センター管理運営事業

[指定管理事業]

県民の文化活動の拠点施設として利用者のニーズに対応しながら安全・安心で快適に施設が利用できるよう管理運営にあたった。

本年度における施設の利用率は、施設全体で昨年度と同水準の 79.7%となり、施設利用者数においては、当初計画の 60 万人を上回る 604,882 人となった。

なお、開館から 50 年が経過し施設の老朽化が進行していることから、利用者の安全確保、不具合解消並びに環境整備等を目的として計 47 件の修繕を実施し、施設の長寿命化を図るとともに利用者が安全・安心で快適に施設を利用できるよう努めた。

ア 施設の利用促進及びサービスの向上

(施設利用状況)

( ) は前年度実績

区分	利用日数(日)	回数(回)	利用者数(人)	利用率
大ホール	261( 262)	640( 641)	258,718( 255,725)	83.9(88.2)
小ホール	240( 284)	528( 626)	74,791 ( 88,214)	87.0(85.8)
本館集会室	326( 342)	3,252(3,639)	100,534( 115,957)	96.4(97.2)
分館集会室	314( 318)	1,692(1,799)	40,783 ( 39,434)	90.2(94.4)
和室(本館)	164( 181)	332( 381)	4,085 ( 4,288)	48.7(52.5)
一般展示室	286( 283)	797( 781)	64,334 ( 68,575)	83.6(81.1)
県民ギャラリー	237( 217)	237( 215)	61,637 ( 62,049)	69.1(62.4)
計	1,828(1,887)	7,478(8,082)	604,882 (634,242)	79.7(80.0)

\* 利用率とは、利用可能日に対する利用日数の割合。

・ 施設の休館等状況

小ホール客席改修及びカーペット張替等工事により平成 28 年 11 月 24 日から平成 29 年 1 月 27 日まで小ホール休館

(収支状況)

(単位：円)

事 項	平成 28 年度	平成 27 年度	比較増減
指定管理料収入	185,760,000	184,870,000	890,000
利用料金収入	89,599,401	108,270,083	△ 18,670,682
収入計	275,359,401	293,140,083	△ 17,780,682
支出	282,339,344	301,853,283	△ 19,513,939
当期増減額	△ 6,979,943	△ 8,713,200	1,733,257

※ 利用料金収入について、29年度分(12,623,243円)については、前受金とした。

(ア) 割引制度の継続実施

閑散期の利用促進を図るための1月限定の施設利用料金50%割引について、これまで割引対象施設であった大ホール、小ホール、一般展示室、県民ギャラリーに、利用率の低い和室を新たに追加し、ホームページを中心に割引制度の周知を行った結果、当初計画を上回る利用率となった。

(割引制度対象施設の利用実績)

区 分	利用日数(日)	該当利用人数(人)	利用率(%)
28年度計画	64	20,074	57.1
28年度実績	68	18,502	68.0
増 減	4	△ 1,572	10.9

(イ) 新規利用団体への誘客及びリピーターの確保

- ・ 催し物ご案内を掲載したリーフレットを毎月12,000部作成し、県内の集客施設など約500団体へ配布することにより、催事情報の周知及び利用促進に努めた。
- ・ 催事や施設の空き状況等に関するホームページ掲載情報を随時更新し、最新情報の提供に努めた。
- ・ 県内企業等訪問及び県外へのダイレクトメール発送により、新規利用団体及びリピーターの確保に努めた。

(ウ) サービスの向上

- ・ 会場受付及び公演チケット販売業務の平日の営業時間を午後7時まで延長し、仕事帰りの方が利用できるよう、サービス向上に努めた。
- ・ ホームページからダウンロードできる施設図面や催事及びチケット情報等について、より見やすく分かりやすいよう改善するとともに、交通アクセス案内ページにバス時刻の案内を追加するなど、利用者のニーズに合わせ利便性を高めた。
- ・ 来館者と主催者双方を対象とする満足度調査(アンケート調査)を毎月実施するとともに、調査結果を分析し、利用者からの要望に対して迅速な対処に努めた。
- ・ 備品の整備においては、利用者からの要望等に基づき、舞台大道具の松羽目の更新をはじめ、集会室用ポータブルワイヤレスアンプ一式の更新、自動傘袋装着器・集会室用スポットエアコンの追加設置など、利用者が快適に施設を利用できるように努めた。

#### (エ) イルミネーション事業

16回目を数える県民文化センターイルミネーション事業については、「開館50周年記念 茨城県立県民文化センターイルミネーション2016」のタイトルにより11月13日から12月25日までの43日間点灯した。

メイン装飾として、「50th アニバーサリーツリー」と名付けた、LED電球4,500球で装飾された高さ8メートルの光り輝く巨大ツリーを中庭内に設置したほか、開館50周年記念ロゴマークを展示棟壁面に投影するなど、50周年記念に相応しい華やかなイルミネーション装飾による点灯を行った。

また、マスコミ等への積極的なPRにより、新聞やラジオ番組での紹介をはじめ、多数の情報誌やSNS上において紹介記事が掲載され、1日あたり最高2,000人を超える見学者が訪れるなど大きな反響を呼んだ。

#### (実施内容等)

タイトル	開館50周年記念 茨城県立県民文化センターイルミネーション2016
実施期間	平成28年11月13日(日)～平成28年12月25日(日)(43日間)
点灯時間	11月13日～11月30日 午後5時～午後10時まで 12月1日～12月25日 午後4時30分～午後10時まで
見学者数	延べ39,058人(前年度43日41,527人)
装飾仕様	LED電球総使用数 約65,000球,
主な装飾	・50th アニバーサリーツリー(高さ8m, 直径3m, LED電球4,500球使用) ・展示棟壁面への開館50周年ロゴマーク投影(プロジェクターにより照射) ・クリスマス装飾

#### (オ) ワンコインコンサート事業

500円の低価格の入場料金設定と、県民文化センターグリラを演奏会場とすることにより、気軽に身近に生の音楽演奏に触れていただくことを目的としたワンコインコンサートを計6回開催した。

コンサートの出演者については、茨城県出身または在住の演奏家を起用していることから、入場者にとっても親しみやすいコンサートになるとともに、演奏家へ発表及び演奏経験の場の提供にも繋がっている。

本年度は、入場者からの要望が多かったジャズコンサートも新たに開催するなど、従来のクラシック音楽のみのコンサートから、より要望に沿った内容のコンサートとなるよう努めた結果、全ての回で満席となった。

コンサートに関するアンケート結果は概ね好評であり、リピーターも増えていることから、大変人気のあるコンサートとして定着している。

なお、第10回コンサートは、県民文化センター開館50周年と県民文化センター友の会結成50周年の記念事業として、小ホールにおいて県民文化センター友の会総会と合同で開催し、267人の入場者に楽しんでいただくことができた。



## (開催実績)

開催回	開催日	内 容	出演者	入場者数
第 10 回	平成 28 年 4 月 9 日 (土)	チェロ・バイオリン・ピアノのソロと三重奏	小林 倫子 (ヴァイオリン) 山本 徹 (チェロ) 和田 萌子 (ピアノ)	267 人
第 11 回	平成 28 年 7 月 23 日 (土)	ジャズクラリネット&ジャズピアノ演奏	山本 太郎 (ジャズクラリネット) 小林 創 (ジャズピアノ)	61 人
第 12 回	平成 28 年 8 月 27 日 (土)	オカリナ&クリスタルボウル演奏	すとう まきこ (オカリナ) 渡邊 美香 (クリスタルボウル)	61 人
第 13 回	平成 28 年 11 月 26 日 (土)	クラリネット&ピアノ演奏	吉田 かなえ (クラリネット) 遠藤 直子 (ピアノ)	62 人
第 14 回	平成 28 年 12 月 25 日 (日)	ソプラノ独唱	櫻井 智美 (ソプラノ) 小森 美穂 (ピアノ)	55 人
第 15 回	平成 29 年 3 月 26 日 (日)	ピアノソロ演奏	小川 瞳 (ピアノ)	69 人
入場者数合計				575 人

※ 第 13 回、第 14 回はイルミネーション事業とのタイアップ開催

## (カ) スタインウェイ体感事業

県民文化センターが管理するスタインウェイ社製のフルコンサートピアノについて、有効利用を図るとともに、管理上も良好な状態を保つ観点から、大ホールの空き日を利用して演奏希望者に対し無料で演奏機会を提供する「スタインウェイを体感しよう」を計 7 回開催した。なお、第 8 回は、県民文化センター開館 50 周年記念事業として、反響板を設置した特別コンサートスタイルで開催した。

## (開催実績)

開催回	開催日	参加者数
第 8 回	平成 28 年 4 月 12 日 (火)	8 名
第 9 回	平成 28 年 5 月 7 日 (土)	8 名
第 10 回	平成 28 年 8 月 11 日 (木・祝)	8 名
第 11 回	平成 28 年 8 月 28 日 (日)	8 名
第 12 回	平成 28 年 11 月 19 日 (土)	8 名
第 13 回	平成 28 年 12 月 25 日 (日)	8 名
第 14 回	平成 29 年 3 月 26 日 (日)	8 名
参加者数合計		56 名

※ 原則定数 8 名のため、応募者多数の場合抽選により決定

(キ) 県民文化センター友の会の運営

財団主催事業等の鑑賞の促進を図り、公演チケットの売上げ増等に努めながら、県民文化の高揚に協力した。

- ・会員数 2,133 人（平成 29 年 3 月 31 日現在）
- ・友の会だより発行部数 年間 29,700 部
- ・主な実施事業

研修旅行会（年 1 回開催）、観劇会（年 3 回開催）、総会及びアトラクション等の主催、チケット割引等各種会員向けサービスの実施、友の会ガイドブックの発行

(ク) 茨城県公立文化施設協議会の運営

加盟館 34 館から構成される茨城県公立文化施設協議会の会長館及び事務局として理事会、総会及び各種研修会を開催したほか、加盟各館との連絡調整及び事務事業等を行った。

(ケ) 全国公立文化施設協会に関する事業

公益社団法人全国公立文化施設協会の関東甲信越静支部長館として、全国公立文化施設協会事務局等と連携しながら、事務事業等を遂行した。

イ 安全・安心で快適な施設づくり

開館から 50 年が経過し施設の老朽化が進む中、利用者の安全確保を最優先に、施設劣化の抑制に繋がる計画的な修繕を進めることで、施設及び付属設備の長寿命化を図った。

(ア) 施設整備計画の策定及び修繕工事の実施

利用者の利便性向上・安全確保及び施設の老朽化対策を図るため、県と協議のうえ単年度計画及び中期修繕計画を策定し、指定管理部門修繕工事及び県直轄工事を実施した。

a 指定管理事業部門修繕工事

点検・巡視による結果やアンケートでの要望等に基づき、段差による小児等の事故が想定された小ホール前ピロティ一部落の落下防止柵の設置や、本館集会室前多目的トイレ出入口自動ドア化改修工事など、危険要因の除去による安全確保を図るとともに、障害を持つ方や高齢者にとっても利用しやすい施設づくりに努めた。

なお、緊急性の高い危険箇所や不具合箇所については最優先に修繕を実施し安全対策に努めた。

【主な修繕工事】

小ホール前ピロティ一部落落下防止柵取付工事、多目的トイレ出入口自動ドア化改修工事、大ホール楽屋照明 LED 化改修、大ホール楽屋換気扇取付工事など

件数	金額
計 47 件	18,641,401 円



- ・ 開館 50 周年記念メニューとして、ローズポークソテー、美明豚のソテーやつくば鶏のソテー（共に 980 円）を提供したほか、ワンコインカレー（500 円）をほぼ年間をとおして提供し利用者から好評を得た。
- ・ 工夫をこらした自家製弁当の提供により売上向上に努めたほか、各種パーティーメニューを考案し団体客の誘致に努めた。

#### イ サービスの提供

県民文化センター利用者が快適に利用できるようサービスの向上に努めた。

- ・ イルミネーション期間に合わせてホール内を装飾するなど、親しみのもてる空間作りを行った。
- ・ グリルを会場とするワンコインコンサートにおいてドリンク類や菓子類を販売し売上増に努めた。
- ・ 駐車場（有料）利用者に対して、ソフトドリンク類の無料券を配布し利用促進とサービス提供に努めた。
- ・ 夜間の催し物に合わせて営業時間を延長し、サービスの提供及び売上増に努めた。

#### ウ 利用状況

（単位：人）

事 項	28 年度	27 年度	比較増減
グリル利用者数	42,069	37,914	4,155
売店利用者数	32,962	39,846	△ 6,884

#### エ 収支状況

（単位：円）

事 項	28 年度	27 年度	比較増減
飲食料収益	40,538,519	40,793,100	△ 254,581
売店収益	15,763,712	18,592,287	△ 2,828,575
諸 収 益	1,928,838	2,305,899	△ 377,061
収 益 計	58,231,069	61,691,286	△ 3,460,217
グリル事業費	68,346,094	67,189,872	1,156,222
正味財産増減額	△ 10,115,025	△ 5,498,586	△ 4,616,439

#### （2）駐車場の運営

茨城県から管理許可を受けた千波公園・県民文化センター前駐車場を利用者が安全かつ円滑に利用できるよう管理運営に努めた。

ア 安全対策

- ・ 満車予定の催事開催日において、警備員を増員するとともに、臨時駐車場として水戸市消防学校跡地を借上げることにより、利用者の安全確保及び混雑緩和を図った。

(警備員増員実績)

事 項	28 年度	27 年度	比較増減
日 数 (日)	159	178	△ 19
延べ時間数 (時間)	2,592.0	3,121.5	△ 529.5
延べ人数 (人)	627	786	△ 159
金額 (円)	5,598,720	6,068,196	△ 469,476

(臨時駐車場借上げ実績)〈主催者による借り上げは除く〉

事 項	28 年度	27 年度	比較増減
回 数 (回)	23	29	△ 6
金 額 (円)	876,300	1,131,000	△ 254,700

イ 利用状況

(単位：台)

区 分	28 年度	27 年度	比較増減
全額徴収	44,926	45,540	△ 614
1 / 4 免除	27,601	26,394	1,207
1 / 2 免除	7,496	8,170	△ 674
全額免除	57,539	50,528	7,011
還 付	33,628	14,972	18,656
合 計	171,190	145,604	25,586

ウ 収支状況

(単位：円)

事 項	28 年度	27 年度	比較増減
駐車場利用料収益	28,594,800	28,624,990	△ 30,190
駐車場費	27,161,779	26,448,490	713,289
正味財産増減額	1,433,021	2,176,500	△ 743,479

#### 4 公益目的事業2（水族館事業）

アクアワールド・大洗は、基本テーマである「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に沿って、地域の自然と世界の水生生物の生態環境を通し、生物の多様性や自然環境・地球環境について、楽しみながら学ぶという教育と娯楽性を兼ね備えた施設として運営を行った。

また、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営に努めた。

また、重点地域である、栃木・埼玉県における大型集客施設や北関東自動車道沿線での各種キャンペーンの実施や新聞・テレビ等メディアへの情報発信を積極的に行い、年間をとおして広報周知に努め誘客活動を推進したほか、2月に県内全線が開通した圏央道利用を含め観光業者への営業などにより、総入場者数は113万4千人を達成した。

##### （1）入場者実績

入場者数

単位：人

区 分	有料入場者					無 料 入場者	総入場者
	大人	小中	幼児	合 計	前年度		
一 般	423,505	55,600	45,987	525,092	545,481	127,121	1,134,313
団 体 等	252,565	93,429	62,162	408,156	407,352		
年間パスポート	8,732	1,395	3,061	13,188	12,782		
年パス2回目以降	40,611	4,928	15,217	60,756	61,285		
合 計	725,413	155,352	126,427	1,007,192	1,026,900		
27年度	742,939	155,299	128,662	1,026,900	—	133,819	1,160,719

無料入場者内訳

単位：人

区 分	3才未満	招待券	整理券	こどもの日	県民の日 (幼児)	合 計
28年度	94,595	17,258	11,488	3,251	529	127,121
27年度	97,627	19,943	11,101	4,514	634	133,819
比較増減	△ 3,032	△ 2,685	387	△ 1,263	△ 105	△ 6,698

##### （2）飼育展示事業・調査研究事業

###### ア 魚類展示

魚類の飼育機器・施設の適切な管理を行い、生物の健康管理と安定した飼育環境作りに努めた。採集、購入、寄贈等の生物収集や繁殖した生物により、展示生物の更新や新規生物の開拓を行い、フレキシブルな展示を心がけ、広報誘客に繋げるべくそれらの情報発信を積極的に行い話題の提供に努めた。さらに季節毎のイベント・移動水族館等でも生物展示を実施し誘客促進を図った。

また、茨城県水産試験場の調査船より生物の提供を受け、国立科学博物館と共同研究を進めるなど、地元のさまざまな生物の生態解明にも取り組んだ。

(ア) 展示生物収集

各水槽の展示の充実を図るため、会瀬定置網や地元漁業者からの購入・寄贈、他園館との生物交換、自家採集等を実施した。

(展示生物収集実績)

<計 331 回／収集生物点数 509 種 36,951 点>

収集方法	回数	種類数	点数	主な生物
会瀬定置網から購入	30 (うち乗船 収集8回)	71	602	シロシュモクザメ・クロマグロ・コ ウイカ・マンボウ他
活魚業者、漁業者から購入 (会瀬定置網を除く)	100	117	24,886	マイワシ・イモリザメ・ダルマハダ カカメガイ・ヒレジャコガイ他
漁業者等からの寄贈	104	110	5,106	キアッコウ・コバルトアユ・イシガ キフグ他
県調査船(あさなぎ, いばらき 丸)からの寄贈	21	63	973	サンゴノフトヒモ・サケビクニン・ ダーリアイソギンチャク他
自家採集(涸沼, 大洗マリーナ, 網走等)	34	85	4,036	ヒメイカ・シラウオ・イサザアミ・ アマモ他
生物交換【搬入】(室蘭水族館, なかがわ水遊園, 加茂水族館, 下田水族館他 10 園館)	28	43	491	スケトウダラ・オオカミウオ・カク レクマノミ・クラゲ類他
生物交換【搬出】(室蘭水族館, なかがわ水遊園, 仙台うみの杜 水族館, 加茂水族館他, 7 園館)	14	20	857	タカアシガニ・ガラルファ・マンボ ウ・クラゲ類他

(イ) 生物展示の充実

- a 「カリブ海水槽」を「沖縄のサンゴ水槽」に全面リニューアルし展示の刷新を図った。
- b 県内初記録、ヒメイカ(世界最小の種類)とミナミイケカツオ(アジ科)を採集、展示に寄与した。
- c 室蘭水族館(姉妹水族館)との生物交換でスケトウダラ・ホッケ・オオカミウオ等を搬入しオホーツク関係の展示の充実に努めた。
- d 茨城県水産試験場内水面支場の協力により稀少な“青いアユ”を展示した。
- e 茨城県調査船いばらき丸で捕獲された深海生物サンゴノフトヒモを世界初の摂食映像とともに展示し、メディアやSNSに発信した。
- f 日本では2館のみで展示している稀少なイモリザメは、3月31日現在で飼育日数が5,510日に達し、日本における飼育記録を更新中である。
- g 第24回企画展「つながるいのち」、第25回企画展「ボクらの生きもの図鑑」において生体展示や付帯事業を行った。それぞれ、ディスカス等8種200点、ゲンゴロウ等

38種 210点を展示した。

- h 日本初の水槽内繁殖によるシロワニの胎児を液浸標本にし、成魚の剥製、交尾行動の動画と共に展示し標本展示の充実を図った。

(ウ) 広報資料提供

- a ヒメイカ展示、サンゴノフトヒモ展示等で7本のマスコミリリースを行った。
- b NHK水戸放送局の「動物図鑑」等16本のテレビ取材に対応をした。
- c 読売新聞に毎週連載の「いきもの日記」において、展示生物の紹介原稿を投稿し、計38件の記事掲載を行い、広報宣伝の一助とした。
- d ホームページの生物情報として、新着生物ニュースの更新ほか、スタッフブログ・フェイスブック・ツイッター等のSNS情報発信に努めた。

(エ) 生物の繁殖育成

- a サメエイ類では、アラビアンカーペットシャーク・ショートテールナースシャークなど12種約200点が繁殖し、サメ・エイ以外の硬骨魚では、ダンゴウオ・カクレクマノミなど7種約8,500点、クラゲ類ではギヤマンクラゲ・シロクラゲなど9種約4,300点が繁殖し一部を展示に供した。
- b 昨年度国内で初めて繁殖に成功したポートジャクソンシャークが、日本動物園水族館協会から「繁殖賞」を受賞し、その育成個体を展示した。

(オ) 調査・研究

- a 茨城県に来遊するサメ類の調査として、シロシュモクザメ、アオザメ等4種14点を収集し、各部計測後解剖しデータを収集した。
- b 漁師が混獲したウミガメ類4個体の標識放流を行い、漂着したウミガメ類14個体を解剖しデータを収集した。
- c 神栖市日川浜に産卵したアカウミガメの卵を、波浪による水没から回避させる為に後方へ移植し、孵化調査を行った。
- d 大洗マリーナ内で6回の潜水目視調査を行い、季節ごとの来遊魚を観察し、一部を採集した。
- e 茨城県沖の深海生物、サンゴノフトヒモの生態について国立科学博物館と、サンゴの幼生について御茶ノ水女子大と共同研究を実施中。理研、東京大学とそれぞれサメ類の共同研究を行っている。

(カ) 研究発表

- a 茨城県におけるウミガメ事情（日動水協 関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会；口頭発表）
- b DNA分析によるハナザメ雌の腹部から取り出された胎仔12個体の父親個体数の推定（日本DNA多型学会；ポスター発表）
- c 水槽内でのシロワニの交尾行動と排出された胎仔について（日動水協 水族館技術者



研究会；口頭発表)

(キ) 展示解説等

水中対話ショー「アクアウォッチング」は、夏期特別展・クリスマスなどの館内イベント開催中に特別バージョンを実施したほか、サメ・マンボウ・出会いの海で飼育員による給餌解説を実施した。また、館内及びバックヤードの案内を希望する団体等に対して臨時解説を実施した。

(ク) ミュージアムパーク茨城県自然博物館水系展示水槽管理委託事業

県自然博物館の水系展示水槽の委託業務として、展示生物の入手及び水槽・水質の維持管理を行い、平成 29 年 2 月末現在、ニッコウイワナ・ウグイ・ドチザメ等 67 種 441 点の生態展示を行った。また、館外においては、大洗マリーナでの潜水採集、流れ藻乗船採集等で調査収集を行い展示生物の充実を図った。

企画展「洞くつ探検」、「外から運ばれてきた生き物たち」、「アンモナイトワールド」においては、企画展における特設水槽の生物維持管理を行い、また、海の日やサイエンスデーでは、「バックヤードツアー」の事業に協力し実施した。

さらに、濾過器交換などの大規模改修工事の監理や標本資料の保管、博物館の定期刊行誌に寄稿するなど、博物館との連携協力を努めた。

イ 海獣展示

展示については、イルカ・アシカオーシャンライブの充実を図り、話題性の追及等、誘客促進に努めた。繁忙期には、オーシャンライブの回数を増加し対応した。

繁殖事業については、イルカを繁殖させる事を意識し、デモプール・ホールディングプールの種別夜間収容頭数の組み合わせ等工夫をした。アシカに関しては、発情期を見極め雄、雌の同居に工夫した。今年度は、カリフォルニアアシカ 1 個体の出産があり順調に成長している。エトピリカに関しても 5 羽が順調に成長している。

カピバラについては、平成 28 年 9 月 30 日に 2 頭のうち 1 頭「愛称：リュウマ」を宇都宮動物園へ無償譲渡した。

また、ペンギン・カピバラ・カリフォルニアアシカ屋外展示水槽は、平成 28 年 12 月 3 日から平成 29 年 3 月 14 日までの 103 日間、鳥インフルエンザの影響で屋外展示ゾーン全てを閉鎖した。今回の県内発生事例を受けて、鳥インフルエンザ対応マニュアルを全面的に見直し改訂を行った。

調査研究については、茨城県沿岸にストランディング（漂着）した生物の調査、研究を関係団体と協力して実施した。

(ア) 展示の充実

イルカ・アシカオーシャンライブは、アシカが旗を銜えた状態でイルカの背に乗る「愛のランデヴー」をはじめ、夏期特別展「アマゾン展」やハロウィン・クリスマスなど季節

毎に実施するイベントとタイアップし、斬新なライブプログラムを提供した。

カリフォルニアアシカについては、平成 29 年 3 月 15 日から 31 日までアシカの親子展示を実施した。仔獣については、一般公募により「海人」と命名した。

#### (イ) 生物繁殖事業の推進

鯨類は、バンドウイルカ「シェル」が 7 月 12 日に出産したが、母獣の呼吸を促す行動など見られたが、沈降状態となり死亡した。(体長 120cm, 体重 17.2kg, 雌) 鰭脚類については、カリフォルニアアシカ「プリン」が 8 月 4 日に出産し、体重 40kg を超える大きさまで順調に成長している。エトピリカは、9 卵の産卵が確認され、うち 7 卵が孵化し 5 個体が順調に成長している。

#### (ウ) 調査・研究活動の推進

ストランディングについては、鯨類 7 件・オットセイ 1 件、計 8 回の調査を実施し、各種データの収集に努めた。

#### (エ) 展示解説等

エトピリカ・ゴマフアザラシ・ラッコ・フンボルトペンギン・カリフォルニアアシカ・カピバラの 6 種の給餌解説「お食事タイム」を実施した。

### (3) 教育普及事業

生き物や環境などについて、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる活動を展開するため、展示物及び設備や人材の活用を図り、館内外で解説・レクチャー・自然体験塾などの活動を実施した。さらに、「水族館探検ツアー検討会議」、「タッチング水槽検討会議」をもうけ、新たな事業展開を検討した。

また、ホームページや機関誌を通して水族館に関連した各種情報の提供に努めるとともに、学校等からの要請により、自然観察会や講演会等への講師派遣の他、移動教室を開催した。同様に、教育機関からの実習、職場体験学習等、各種団体等の研修の受入れを行うとともに、生涯学習施設としてボランティア活動支援を行った。

#### ア 発見体験学習

生き物や自然環境、水族館に対する理解を促すため「自然体験塾」や会員制教室「アクアパル」、「さかなの絵コンクール」等の事業を実施した。

(自然体験塾) 29 事業 / 定員 692 名 / 応募総数 4,958 名 / 参加総数 709 名

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
4/16	イルカトレーナー入門	小学生	10 名	65 名	12 名
10/15	イルカのふしぎ	小学生以上	10 名	41 名	16 名
2/5	イルカトレーナー入門	小学生	10 名	158 名	13 名
4/23	サメ探検隊	制限なし	15 名	93 名	16 名

5/8	磯の生き物大探検 ①	制限なし	20名	112名	23名
5/21	磯の生き物大探検 ②	制限なし	20名	87名	30名
5/14~15 7/9~10 9/3~4 9/24~25	水族館ナイトキャンプ (6回実施) 夜の水族館と展示生物の生態観察と館内ナイトキャンプ。1泊2日で実施。	制限なし	270名 各回45名	2,329名	280名
10/29~30 3/11~12		小学生以上			
6/4	カニ探検隊	制限なし	30名	116名	36名
6/11	船から探る大洗の海 (午前・午後各1回)	小中学生と保護者	48名 (各24名)	145名	41名
6/25	那珂川中流大探検	制限なし	15名	106名	9名
7/2	地曳き網で生き物大探検	制限なし	30名	396名	34名
7/16	深海生物のふしぎ	制限なし	15名	152名	14名
7/27	缶詰づくりにチャレンジ	制限なし	20名	68名	17名
8/4	よくばり飼育体験(海獣編)	小学生	15名	140名	13名
8/25	よくばり飼育体験(魚類編)	小学生	15名	84名	13名
11/12 3/4	カムバックサーモン (2回シリーズ)	小中学生と保護者 2回参加	30名	61名	33名
11/19	生き物飼育体験(魚類編)	制限なし	20名	96名	19名
2/19	生き物飼育体験(海獣編)	小学生以上	10名	173名	12名
12/17 2/25	コンブを育てよう! (2回シリーズ)	制限なし 2回参加	20名	59名	17名
1/28	「かまぼこ」づくりにチャレンジ	小中学生と保護者	25名	73名	19名
2/11	クラゲのふしぎ	制限なし	14名	137名	14名
3/18	ホエールウォッチング	小学生以上	30名	267名	28名

(大人向け「マスタースクール」)

4事業/延べ60名

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
5/29	アシカの不思議	中学生以上	15名	17名	16名
9/11	サメのからだの不思議	中学生以上	15名	33名	14名
12/4	イルカトレーナー体験	中学生以上	15名	70名	14名
1/22	マンボウに迫る!	中学生以上	15名	23名	16名

(会員制教室／アクアパル)

3事業／延べ35名

水族館ナイトキャンプ	夜の水族館と展示生物の生態観察と館内泊。6月18日・19日に1泊2日で実施。	会員家族 12名
シラス漁にチャレンジ	漁船に乗船し、シラス漁体験と混獲生物の観察。10月1日に実施。	会員家族 12名
ところてんづくり&海藻押し葉作り	ところてんづくりと海藻押し葉つくりのレクチャー。1月14日に実施。	会員家族 11名

(参加型事業)

2事業／延べ333作品

さかなの絵コンクール (事前に館内写生会開催)	展示生物を題材に絵画の制作機会を提供し、提出作品の作品展を開催。写生会を10月～11月に計4日間開催。館内展示と表彰式を開催。	小学生 195名 (入賞11人)
絵てがみ展	季節行事や動植物、自然をテーマにした作品展の開催。毎月の優秀作品を選考して館内に展示。通年。	制限なし 応募 138点

## イ レクチャー及び展示解説

展示生物や自然・環境に対する理解を深めてもらうために、入館者を対象に展示生物の生態等に関する解説サービスとして各種ショープログラムを実施した。

名 称	内 容
なるほど魚っちんぐ	お魚発見教室のレクチャールームにおける生物の特徴を解説実験・観察等新規に作成したテーマ解説を含め、ランダムに実施。 通年4回/日実施 <参加者数 29,097名>
アクアウォッチング	出会いの海の大水槽におけるダイバーが映し出す水中映像を通して、生物の特徴や生態の紹介と質問タイム提供。季節毎に特別バージョンを実施。 通年4回/日実施 <参加者数 128,045名>
お食事タイム	展示生物の給餌の様子を公開しながら、生物の特徴や生態の紹介と質問タイム提供。 対象生物ごとの実施回数、参加者数は以下のとおり。 エトピリカ： 2回/日 <参加者数 21,992名> ゴマフアザラシ： 2回/日 <参加者数 21,356名> ラッコ： 3回/日 <参加者数 37,687名> フンボルトペンギン： 3回/日 <参加者数 59,580名> カリフォルニアアシカ：1回/日 <参加者数 12,844名> カピバラ： 1回/日 <参加者数 13,565名>
水族館探検ツアー	普段見ることができない水族館の裏側を案内、解説。 3回/日実施 <参加者数 12,515名>

<探検ツアー検討会による 新規展示解説> ①バックヤードウォーク ②サメ・マンボウコース ③イルカコース	① 6階キーパーデッキを使用した「バックヤード ウォーク」を4/29～5/5, 8/1～8/21, 1/1～1/3の31日間の繁忙期間限定で実施した。 <延べ参加者数 85,274名> ② 1日6回(30分間)の「サメ・マンボウコース」を7月の土・日4日間実施した。 <参加者数 388名> ③ 閑散期対策の一環として2月平日第3回目限定として海獣展示課専門コースとして「イルカコース」を開催。 <前年度比較 458名 ⇒ 461名>
--	---

#### ウ コンピューター情報運用管理

館内の情報端末や館内外へ向けたホームページ上において、水槽展示生物トピックス情報や環境保全、水族館の機能や役割等に関して情報発信を行った。ホームページはアクセス解析により閲覧者の動向分析やPR効果を評価し、さらに有効な広報媒体作りを行った。

ホームページへの平成28年度アクセス件数は、前年度を下回り1,610,414件(昨年度1,686,973件)1日平均4,412件(昨年度4,609件)であった。

年度当初には、外部から水族館を標的にしたと思われるDOS攻撃を受けホームページの閲覧に不具合が発生したため、茨城県情報政策課や茨城県警及び専門業者などからの指導及び連携を密にして、セキュリティ強化をすすめ常に閲覧できるよう環境整備に努めた。

また、管理サーバーの更新を実施し、日常のコンピュータシステム管理を行なった。システム端末等においては、散発的に発生した動作不良、部品交換等の不具合解消に努め、画質が低下していた出会いの海の大水槽プロジェクターを更新した。

#### エ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、ボランティア活動の支援を行った。毎月1回役員会を開催し、要望の集約・活動課題、研修計画等の検討・整理をすすめ随時募集にて登録した。

<新規加入は11名。平成29年3月31日現在の登録者は96名>

#### (活動実績)

期 日	内 容	参加人数
6/26	第15回マンボラクラブ総会を開催し、感謝状授与、活動実績報告及び活動計画、新役員選出と内部講師による講話を実施	36名
10/15～20	全体研修を「ミュージアムパーク茨城県自然博物館」で実施	39名
11/3～6	マンボラクラブ活動発表会「マンボラフェスタ2016」を開催	延べ43名
年度内	自然体験塾「水族館ナイトキャンプ」ほかプログラム計18回、磯観察会15回に支援参加	延べ44名
年度内	入館者を対象に5階バックヤードにおいて、ミニ探検ツアーを計44回実施	参加者計241名
◎ボランティア役員会議12回実施・年間活動者数 延べ1,865名/9,222時間		

オ 機関誌「Sea遊」の発行 <発行部数 各号 8,000 部>

水生生物等への理解促進を支援するとともに、水族館のイメージアップ、広報を図るため、展示生物の興味深い生態やトピックス等様々な情報を紹介する機関誌を年 2 回（第 30・31 号）発行、動物園水族館を始め栃木県及び県内教育機関等へ配付した。

カ 企画展

常設展では表現できないテーマを取り上げて、生物や自然環境についての理解を促進するため、企画展を実施した。また、平成 29 年度企画展テーマの検討を行った。

名 称	内 容	開催期間
第 24 回企画展 「つながるいのち～潜入！ 子育ての世界～」	「つなげ命のバトン」をテーマに、海の動物たちの出会い、交尾、子育てについて、飛び出す絵本風の展示で様々な「子育て」を分かりやすく解説展示及び付帯事業を実施した。	平成 28 年 1 月 16 日～ 5 月 8 日
第 25 回企画展 「ボクらの生きもの図鑑 ～水生昆虫 大集合～」	身近な水域で見られる馴染み深い生き物たちの知られざる生態を紹介し、驚きと共に理解を深めてもらう事を目的とし、「子供たちの冒険心を喚起し、ワクワク感を前面に押し出す」展示を行った。さらに、身近な生きものの現状を知ってもらうことで、環境に対する意識の向上に努めた。	平成 29 年 1 月 21 日～ 5 月 7 日

キ 深海ゾーン・海の生き物科学館及びお魚発見教室展示機器等の運用管理

各アイテムの展示機能を確保するため、随時、生物の補充や散発的に発生した動作不良、部品交換等の各種不具合の迅速な解消に努めた。その他、将来の展示物更新のために資料を収集した。

ク 自然教室等への講師派遣

教育機関等の要請に応じ、水生生物や環境等をテーマとして各種館外活動を行った。

- ・ 磯観察会では主に熊谷市内小学校の 30 校が、大洗の海に生息するヒトデやウニなどの生物に触れる観察会を実施した。
- ・ 県内中学校から講師派遣依頼を受けて総合的な学習の時間で計画された「職業人の話を聞く会」において進路選択につながる講演を実施した。
- ・ 県内幼稚園・小学校をはじめ、県立こども病院入院中の児童を対象に「実際に海の生物に触れる体験」となる移動教室を実施した。

<延べ 51 団体 参加者総数 3,826 名>

名 称	対 象	内 容	参加者数
自然観察会 ・ 講演会 ・ 授業等	熊谷市磯観察会 30 校、 茨城中学校ほか 8 団体	学校主催の磯観察会における生物の観察、採集方法や生物の特徴等解説。学校授業等への参画・支援。	2,673 名

移動教室等	茨城県立こども病院ほか11団体	水族館や生物に興味を持ってもらうため、無脊椎動物や剥製へのタッチングを実施。	1,153名
-------	-----------------	--	--------

#### ケ 研修会等の受入れ

教育機関や団体からの要請に応じて、水生生物や飼育設備等をテーマとして各種館内活動を行った。

＜延べ57団体 参加者総数 2,085名＞

名称	対象	内容	参加者数
バックヤード見学	檜葉町立檜葉中学校ほか44団体	大型水槽裏側を中心とした飼育設備の概要説明と飼育解説。	1,634名
館内レクチャー・講話等	県立竜ヶ崎第一高等学校	総合学習等、生き物や飼育に関する講話やインタビューに対応。	40名
夜の水族館	那珂市立額田小学校ほか10団体	照明を消した館内で、昼間と異なる生物の生態観察の場を提供。	411名

#### コ 実習生等の受入れ

博物館相当施設として社会教育機能の役割を果たすため、実習生等を受け入れた。

＜延べ66件 参加者総数 110名＞

名称	対象	内容	参加者数
学芸員・飼育実習	北里大学、ほか35件	大学・専門学校の単位取得を目的とした実習生の受入れ。	40名
職場体験学習	北茨城市立磯原中学校ほか17件	中学生の将来の職業選択や勤労の意義を学ぶ場としての機会を提供。	54名
インターンシップ	県立那珂湊高等学校ほか11件	高校生・大学生の就業意識の向上や新たな学習意欲を喚起するための機会を提供。	16名

#### (4) 交流・連携事業（誘客促進）

28年度は、「未来へ前進する1年」と位置づけ、有料入場者数「100万人」の定着と安定確保を目標として誘客活動を推進し、8月のオリンピック観戦や台風の襲来、11月以降の降雪・地震等の要因により、前年度比約2%の入場者の落ち込みがみられたものの、栃木・埼玉等近隣の道の駅、文化施設でのPR、SNSを含む様々な媒体を活用した活動等により、目標人数及び入場料収入ともに達成する事ができた。

主に、ショープログラムの中で最も人気が高い「イルカとアシカのオーシャンライブパフォーマンス」と、夏休み特別企画「アマゾン」の周知広報を行った。特に、ピラニアやデンキウナギなどアマゾン川を代表する魚類とともに、オオアナコンダなどは虫類や両生類、昆虫類を含む約26種100点の生体展示を行ったほか、ヘラクレスオオカブトと綱引き対決できる遊具を取り入れ、特別企画の目玉展示として、6月初めから館内外告知を始め、県内外の市町村教

育委員会の協力を得るなど様々な機会を生かして情報配信に努めた。

そのほか、大型集客施設での移動水族館及び観光キャンペーン、重点地域における観光業者訪問の実施や、県内外市町村教育委員会を通じ、児童家庭へチラシ及び割引券等配布を実施した。また、主要新聞社、地方テレビ、SNSを活用した情報発信とマスコミを活用した取材協力による無料広告、さらに沿線の人口増が著しいつくばエクスプレス車両及び主要駅へのポスター掲示などの広報活動を推進した。

また、開館15周年を迎えるため、閑散期対策事業でもある「アクア・イルミネーション」を12月10日から記念事業の皮切りとして実施し、アクアウォッチングとコラボレーションして、出会いの海の大水槽周辺を幻想的なイルミネーションで装飾し、癒しの空間を演出した。3月の3連休においては、県知事を迎えて記念セレモニーを開催し、その中で8月に誕生したカリフォルニアアシカの赤ちゃんの名前発表や命名者への記念品贈呈を行ったほか、東京海洋大学名誉博士のさかなクンを招いての講演会をオーシャンシアターで実施した。

連携事業である茨城・栃木・群馬・福島4県の動物園水族館9園館「ファイト7プラス2」による連携キャンペーンを3月20日に当館で開催し、園館のマスコットキャラクターが集合して開館15周年を祝うとともに、園館のPRを行った。

#### ア 広報実績

テレビ収録や新聞等取材に積極的に対応し魅力ある水族館を紹介した。

平成28年度は、若者を意識したインターネット広告と女性向け媒体に比重を移し、インターネット広告として、「スマートフォン版Yahoo」と国内最大の質問サイト「教えてgoo」においてバナー広告を実施し、千葉県・埼玉県・東京都などの近隣の大都市圏を選定し広告を掲載した。

F1層といわれる20代から30代前半の女性を意識した広報としては、ムック本『H a n a k o ママ』、『H a n a k o トラベル』とのタイアップ記事広告、鉄道広告では、財団振興積立金を活用し、TX秋葉原駅に大型フラッグを1ヶ月間掲出したほか、新規として、6月より京成本線においてドア横ステッカー広告を開始し、都内や千葉県内の通勤・通学客に対して当館のPRを行った。

広報媒体等	有料広報	無料広報	計
新聞掲載	31件	195件	226件
タウン誌	18件	23件	41件
情報誌	21件	94件	115件
広報誌	15件	20件	35件
テレビ	36件	63件	99件
ラジオ	2件	3件	5件
Web	22件	16件	38件
その他	4件	1件	5件
合計	149件	415件	564件



イ 記念式典事業

年間入場者の節目となる式典開催と関連催事を実施した。

式 典 名	開 催 日
年間入場者 100 万人達成セレモニー	2 月 15 日 (水) 321 日目

ウ アンケート調査の実施

(ア) 毎月第 4 日曜日車輦調査, 特定日調査 (GW, お盆)

(イ) 毎月第 4 日曜日入館者調査

エ 催事等

(ア) 催事実績

期 間	催 事 名	期間内入場者
2/27(土)～4/3(日)	開館 14 周年記念イベント 「勇者マンボウ～大洗に集いし勇者 たち～」	135, 198 人
4/29(金)～5/5(木)	GWイベント 「わんぱくパラダイス」	66, 997 人
6/4(土)～7/7(木)	七夕イベント	85, 751 人
7/1(金)～7/31(日)	第 41 回動物愛護標語募集	115, 178 人 応募作品数 100 通
8/11(木)	サマーナイト	12, 876 人
募集期間 5/1(日)～8/31(水) 投票期間 9/6(火)～9/30(金) 表彰式 10/25(火)	アクア・フォトコンテスト 2016	519, 764 人 応募作品数 194 点
10/1(土)～31(月)	ハロウィンワールド 2016	92, 644 人
11/1～12/20	年間パスポート所持者限定プレゼント 2016	イベント参加者 5, 531 人
11/5(土)～1/3(火)	沖縄・座間味村 ホエール・ウォッチン グと海の生き物パネル展	126, 742 人
11/23(水)～12/25(日)	アクアワールドクリスマス 2016	49, 580 人
漢字募集期間 11/12(土)～12/15(木) 発表日 12/28(水)12 時ライブ	アシカによる「今年の漢字 2 文字」	57, 211 人
12/28(水)～1/31(火)	アクアワールド 行く年来る年	84, 675 人
12/10(土)～2/14(火)	開館 15 周年記念事業 「アクア・イルミネーション 2016-2017 ～世界の海に広がる宇宙 (そら)～」	143, 964 人

募集期間 2/1(水)～2/28(火) 発表日 3/19(日)15周年記念式典	カリフォルニアアシカ プリンの仔 名前募集	60,833人 応募総数 1,405件
2/25(土)～3/31(金)	開館15周年記念イベント ①スタンプラリー ②ねば～る君記念撮影会 ③記念セレモニー ④さかなクン講演会 ⑤オリジナルグッズプレゼント ⑥ファイト7プラス2キャンペーン	110,542人
計	15事業	1,661,955人

(イ) 特別展示

実施日	催事名	期間内入場者
7/16(土)～9/19(月)	夏休み特別企画 「アマゾン」	346,229人

(ウ) 移動水族館実績

実施日	催事名・場所
5/14(土)～15(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
6/18(土)～6/19(日)	フクダヤインターパーク 宇都宮市
9/4(日)	空のえき「そ・ら・ら」
9/10(土)	いばらきの魚わくわくパーク イオンモールつくば
10/22(土)～23(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
3/4(土)～5(日)	イオンモール与野
計 6事業	

(エ) キャンペーン及び誘客営業の活動実績

実施日等	キャンペーン名
6/30(木)	茨城県人会連合会懇親会
7/2(土)	イオンレイクタウン (越谷市)
7/16(土)	ファイトセブン連携キャンペーン (栃木県なかがわ水遊園)
7/9(土)	イオンモール太田 (県観光物産協会主催)
8/27(土)	大洗・海の感謝祭 (大洗マリーナ)
10/2(日)	にっぽん丸日本一周クルーズ関連事業
1/11(水)	明日の茨城づくり新春のつどい

2/7(火)	茨城県人会賀詞交換会
2/18(土)	宇都宮ベルモール（県観光物産協会主催）
通年	県内外集客施設及び観光施設リーフレット等配付 （県内外の道の駅・大型図書館等の集客施設に割引券付リーフレットの配布）
通年	観光エージェント訪問 （期間限定商品等の県内外への営業訪問の実施）
通年	チラシ・ポスター送付及び各県民の日割引の周知活動（茨城県，栃木県内を中心に埼玉県，千葉県，群馬県及び福島県へ情報提供。） （各県民の日の割引について，集客施設へのポスター掲出や地元新聞等へ記事掲載。）
通年	県内外の小学校への営業活動 （茨城県，栃木県，千葉県，埼玉県の各市町村の教育委員会を直接訪問するなど，小学校等へチラシや割引券を配布。）
通年	マスコットキャラクターの活用 （着ぐるみ用のハロウィン衣装，クリスマス衣装を制作し，来館者のお出迎え，記念撮影を実施。）
計 14 事業	

## (5) 管理運営部門

### ア 管理運営

施設の適正な管理に努めるとともに，入場者に対するホスピタリティの精神を養うため，日本を代表する先進施設である東京ディズニーリゾートのゲストサービススタイル研修を，企画課・普及課アテンダント，業務課スタッフが受講し，そのノウハウの習得に努めた。

また，接遇の向上を目的として，全職員を対象とした「英会話研修」を実施して，職員の資質向上を図った。他にも，水戸保健所職員を講師に招いた食品衛生講習会を，食品を取り扱う業務課マーメイドスタッフ及びフードコートスタッフを対象に開催し，食の安全に関し注意喚起を促した。

健全な職場環境の維持に努め，ストレスチェックに関しては，財団全体で実施し，水族館産業医との連携を密にしながら，メンタルヘルスケアの強化に努めた。

さらに，入場者の安全確保及び迅速な避難誘導を行えるよう，通常実施している消防訓練の他に地震による津波を想定した避難訓練や，AED及び救命救急講習を実施して危機管理対応力の向上に努めたほか，原発事故の風評被害払拭のため，放射線量の測定を毎日継続しており，その結果をホームページにて更新公表し安全性のアピールにも努めた。

ゴールデンウィーク期間やお盆期間の繁忙期における駐車場混雑緩和対策としては，大洗港第4埠頭を臨時駐車場として借用し，無料のシャトルバス運行を行った。さらに，渋滞緩和策として，隣接する大洗公園駐車場の一部を7月16日から8月21日の期間借用し，入場者へのサービス向上に努めた。

## イ テナント関連事業

マーケットプレイス連絡会議の事業では、水族館スタッフとの合同により、東京ディズニーリゾートのゲストサービススタイル研修を受講し、先進施設のノウハウの習得に努めた。また、水戸保健所職員を講師に招いた食品衛生講習会により、食品の安全安心の注意喚起の再確認を行った。

また、子供用椅子を追加購入し、サービス向上を図るとともに、季節の飾り付けなどで賑わいのある演出を行い、利用促進や環境整備にも配慮した運営を行った。

## ウ 施設整備

中長期修繕計画を基本に各種修繕工事を実施したほか、強風や台風といった自然災害等の突発的な修繕に対応するなど安全対策に努めたほか、身障者用の駐車場利用が開館当初に比べ大幅に増えているため、大型駐車場の歩道部分を補修に併せ、改修し身障者用駐車場に活用できるように整備した他、延べ 257 件（昨年 219 件工事）実施し施設環境の整備をとおしてサービスの向上に努めた。また、省エネルギー委員会を毎月開催し、職員の省エネ意識の向上に努め、省エネ対策として、LED 照明へ更新を進め、省エネに努めた。

また、機械設備面の大型工事では、出会いの海の大水槽、サメ水槽、マンボウ水槽において水槽の温度を調整するために冷温水と熱交換をする熱交換器更新や、平成 27 年度の魚類系につづき、イルカ、アシカ等海獣類の水槽用の海獣系逆洗用ポンプユニット更新工事、安定して電気が供給できるように常用発電機点検・修理など、経年劣化に対応した修繕・更新を行い、環境整備に努めた。

## 5 収益事業 2（水族館売店事業）

### （1）物販部門

スーベニアショップ「モラモラ」及びミュージアムショップ「ガレオス」は、それぞれ特色のある店舗作りを心がけた。

モラモラにおいては、夏期特別企画「アマゾン」や第 25 回企画展「ぼくらの生き物図鑑」などとタイアップした商品や、季節やイベントに合わせた商品を取り揃え、常に新鮮味があるような商品の充実を図った。また、開館 15 周年に合わせて企画をした当館飼育員監修によるオリジナルサメのぬいぐるみ「ほんわかシロワニぬいぐるみ」やお土産用の「鮫カレー」の販売を行った。

水族館有料ゾーンにある「ガレオス」においては、ミュージアムショップとしての専門性のある商品を取り揃えた。また、遠足の子供でも購入しやすいセット商品の販売も行い売上に貢献した。

### （2）飲食部門

コーヒーショップ「マーメイドギャラリー」においては、イベントに合わせたタイアップ商品や季節感のある商品展開を行った。また、開館 15 周年に合わせて開発した鮫カレーの販売などにより売上増に努めた。

なお、鳥インフルエンザ対策のための屋外ゾーン閉鎖に伴い客席数が減少したことにより一

時的に売上が伸び悩んだものの、館内の座席数の増席、午後の座席が空きやすい時間帯でのケーキ類のセットメニュー販売などを実施し売上確保に努めた。

ア 売上実績

(単位：円)

物販部門		飲食部門	
区 分	売上金額	区 分	売上金額
モラモラ・ガレオス	586,782,255	マーメイドギャラリー	74,631,160
自動販売機	8,066,884		
合 計	594,849,139	合 計	74,631,160
水族館売店事業合計		669,480,299	

イ 利用率

物販部門		飲食部門	
総入場者数 (A)	1,134,313 人	総入場者数 (A)	1,134,313 人
利用件数 (B)	320,657 件	利用件数 (B)	91,390 件
利用率(B) / (A)	28.2%	利用率 (B) / (A)	8.0%

※ 利用件数は、レシート発行数（総入場者のうちレジを利用した人数）

ウ 収支状況

(単位：円)

事 項	28 年度	27 年度	比較増減
収益事業収入	677,939,713	688,747,021	△ 10,807,308
支 出	660,222,514	646,266,589	13,955,925
当期増減額	17,717,199	42,480,432	△ 24,763,233